

校長室だより「伸びゆく梢」Ⅱ

文責 柴田町立船迫中学校 校長 三浦 道子

夏休みを終えて1学期後半もスタートし、1週間が過ぎました。感染症対策は、まだまだ続きますが、期末考査や学年行事、新人大会に向けて迫中生は元気に頑張っています。その様子の一部をお伝えします。

延べ人数475人の学習会



夏休み前の集会で、「船迫中学校独自の学習室の10日間と、柴田町教育委員会で主催する3日間の学習会を上手に活用してほしい。ぜひ、涼しくて静かな図書室に足を運んでほしい。」ということ話を話題にしました。部活動の顧問の先生方の呼びかけもあってか、部活の仲間と参加する生徒が多く見られました。また、受験生である3年生も真剣なまなざしで、黙々と学習に励んでいました。学習で大切なことは意欲と目標です。英語検定や漢字検定に挑戦する生徒も多いので、今後も大いに期待しています。

少年の主張仙南地区大会の会場校として

8月26日は船迫中学校を会場に「少年の主張」が行われました。原稿審査を通過した管内12名の代表が、様々な視点で自分の体験や考えを堂々と発表しました。本校からは生徒会長の3年桃奈さんが「私が勉強する理由」と題して、英語教師になりたい夢を聴衆に語りかけました。その説得力のある表現力で、みごと優秀賞に輝き、「みんなが真剣に聞いてくれたので、気持ちよく発表できました。」と舞台度胸のある感想を述べてくれました。



本人の許可を得て裏面に原稿を掲載しましたのでご覧ください。一人一人が勉強する意義を考えるきっかけになるでしょう。

審査委員長はじめ、来校した主催者側から、聴衆者となった生徒の立派な姿と態度、爽やかな挨拶や礼儀正しさにお褒めの言葉をいただきました。本当に自慢の生徒達です。

大河原管内英語暗唱・弁論大会

8月29日は柴田町保健センターを会場に上記の大会が行われました。3年の優好さんは弁論の部で、3年生として臨んだ7月の合唱コンクールで最優秀賞に輝いたクラスの様子を発表しました。『群青』という曲は3.11の震災をテーマに書かれた歌詞で、その内容に思いを寄せ、当たり前の日常に感謝することが大切と熱く語りかけていました。自分の思いを英語で書き、それを暗記して相手に訴える英語力の素晴らしさに驚かされました。

また、2年の正則さんは暗唱の部で芥川龍之介の「蜘蛛の糸」を身振り手振りを交えて表現しました。蜘蛛の糸に懸命にすがるとカンダタが目の中にいるような、まるで演劇のワンシーンでも見ているような素晴らしい表現力でした。



「目標の最優秀賞・優秀賞にはなれなかったけれど、思いきり表現できた。」と二人とも笑顔で感想を述べてくれました。3年生の優好さんから、正則さんへ「来年も挑戦して、頑張してほしい。」とエールも送られていました。

清々しく、文化面でも活躍する迫中生！

